



## なにか始めたいと思う心を つなぐために…ランチサミット報告



何かを始めたいと思っても、どうしていいのかわからない。そんなときに窓口となるのが公共施設。いろんな施設が手を取り合って、情報交換すれば、もっとすばらしいなにかが生まれるかもしれません。



鯖江市内で市民活動の要(かなめ)となっている諸団体の方々が一堂に会し、情報交換することで、知り合い、活動の幅を広げ、つながり合うきっかけをつかもうと、1月24日、鯖江市嚮陽会館で「市民活動おしゃべりランチサミット」が開かれました。

当日は社会福祉協議会、さばえNPOサポート、市PTA連合会、エコプラザさばえ、夢みらい・We、たんなん夢レディオ、さわやかさばえボランティア虹、市愛育会、市地域連絡協議会の各団体から代表や事務局責任者など約30人が集まりました。嚮陽会館にあるコミュニティー・カフェ「こころ」手作りの創作メニューとコーヒーを楽しみながら、それぞれの取り組みや、活動していく中の悩み、課題などをざっくばらんに語り合いました。



■盛んな意見が交わされました



■こころのやさしい味は好評でした

このサミットは市民協働推進会議が発案し、各団体に働きかけて初めて実現しました。いろんな市民団体が交流し、情報交換する機会が増えれば市民の皆さんが「こんな活動がしたい」と思ったときに、どこの団体に相談に行っても「あそこにはこんな団体があるよ」と、自分に見合った市民活動が見つかりやすくなり、活動に参加する間口が広がるのではないかと考えたためです。

市民協働推進会議は市民活動のニーズ調査や市民活動の活性化、相互連携を進めるために鯖江市長から委嘱された16人の市民による協議会で、平成15年に制定された市民活動によるまちづくり推進条例に基づいて設置されました。

福祉、環境、子育てなど幅広い分野の団体の方が一つのテーブルを囲んで意見交換。みなさん、それぞれの活動分野が異なるだけに、興味を持って率直に語り合いました。市民協働推進会議の委員からも「思った以上に多くの人が活動に参加していて驚いた」との声が上がりました。参加者からも「こういった場合は、情報の共有、交遊の意味でもありがたい」などの感想が寄せられました。サミット後のアンケートでは、他団体の情報収集などで、有益な情報を得ることができたという意見もあり、「出会いの場」の大切さを実感する契機となったようです。

鯖江市内には市民活動交流センター、健康福祉センター、環境教育支援センター、夢みらい館・さばえなど、さまざまな公共施設があり、施設を拠点に数多くのボランティア団体やサークル、NPOなどが活動していますが、施設を超えて「あの施設にはこんな団体が活動している」という情報を知る機会は意外に少ないという現状があります。今回集まった参加者には、こうした公共施設の指定管理を受けている団体の方もいて、「指定管理者同士の団体交流なども企画していきたい。指定管理者同士が話し合うことは大事」と言った前向きな意見もありました。一つの団体が自分たちだけで活動するよりも、いろんな団体と関わり合って、みんなで鯖江のまちを盛り上げる気運を高めていけたらすばらしいですね!!!



■こういう試みは始めてで、予想よりも意義のある意見が交わされました



■市民がさまざまな活動に参加することは、まちづくりにも、個人の可能性を広げることにも有意義です。いろんな団体がネットワークを作って、参加の戸口を広くしていければと思います